

広報さくら

◆◆第94号◆◆

平成24年7月17日

発行:日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・ 会 長・・・2
- ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・ 学校長・・・3
- 教職員紹介・・・・・・・・・・・・・・ 4～9
- 球技大会・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 卒業謝恩会を振り返って・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 第53回誠祭・・・・・・・・・・・・・・ 11～13
- お知らせ・あしがき・・・・・・・・・・・・・・ 14

～Let's Begin とにかく何かを始めよう。～



後列左から 安藤 松男 顧問 西村 博和 二学年担当副会長
前列左から 伊藤 哲也 三学年担当副会長 西間庭 準 会長
中村 春彦 一学年担当副会長

私が子どもの頃に胸を躍らせ観ていた「飛び出せ！青春」の中で語られた言葉です。

日本大学明誠高校をロケ地として撮影されたこのドラマでは太陽学園と名付けられ、現在でも変わらぬ環境の素晴らしさが紹介されています。まだ小学生だった私はこのドラマに影響され、高校生に成るのをすごく楽しみにしていたのを思い出します。

先の定時総会にて平成24年度後援会会長としてご指名を頂きました、西間庭 準と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

子どもの頃に夢を描いていた日本大学明誠高校（太陽学園）に自分が関われる事など想像も出来ませんでした。光栄に思うのと同時に浮かれることなく、学校事業及び先生方にお力添えができるよう後援会運動を積極的に行っていきたいと思えます。

さて、後援会の年間計画を一部ではありますが、ご紹介させていただきます。

誠祭(学園祭)にてバザーの開催

これは日頃お世話になっています上野原市の方々を始めとする多くの方々に対して感謝の気

持ちと誠祭を楽しんで頂ける為にと企画されたものです。

強歩大会への支援

学校授業で行われる強歩大会への支援でコース管理や生徒達への応援、豚汁等を作り保護者と生徒の交流を図ります。

謝恩会の開催

卒業式後に後援会より先生方に感謝の気持ちを伝える為に謝恩会を開催致します。

その他、日本大学への研修会や学校の様子を保護者の皆様にお伝えする広報誌の発行等を行います。

Let's Begin とにかく何かを始めよう。

大人になった今でも少しも色あせる事の無いこの言葉と、橋都校長先生の口癖である「チーム日大明誠」の合い言葉を胸に、ほんの少し童心に帰り後援会の方々とスクラムを組みながら生徒達の過ごしやすい学校環境創りを行っていこうと思います。

どうぞ御協力頂けますよう、お願い致します。



平成24年度日本大学明誠高等学校 後援会総会

5月12日に本校多目的ホールに於いて、上記総会が行なわれました。当日は多くの保護者の皆様の参加により、滞りなく議事も進行する事が出来ました。



後援会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の教育推進に際しまして、ご理解とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

先日、後援会広報部の方から原稿を依頼されました。今回は私の教員採用当時の話を、記憶をたどりながら書かせていただきます。

ある雑誌の記事に、新入社員の採用面接において、面接官が「あなたの座右の銘は何ですか。」と質問をしたところ、即座に答えられる人は少なかったということが書いてありました。若い人にとって、座右の銘を聞かれて即座に答えられるということは、日頃からそれを意識しているのだと思います。この言葉を国語辞典で引くと、[いつも自分の座る場所のそばに書き記しておいて戒めとする文句]とありました。ちなみに私のそれは、「一隅を照らす」であります。今から40数年前になりますが、日本大学へ奉職した折、当時の新採用研修会において聴いた講演がもとになっております。

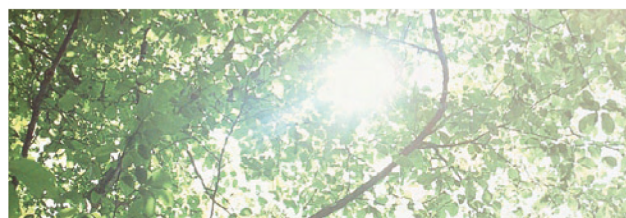
この「一隅を照らす」の由来を探していたところ、偶然にもある月刊誌にその内容が載っていたので、紹介します。「中国の春秋時代、斉の威王と魏の恵王が偶然狩り場で出会いました。恵王が威王に語りかけました。『私の国は小国ですが、他国にはない立派な宝物があります。直径一寸ほどの強い光を放つ球で、車の前後およそ十二乗分までも照らすものが十枚あります。貴国はいかがですか。大国ですのでさぞかし立派な宝をたくさんお持ちでしょう』威王は答えました。『私の国にはそういうものはありません。しかし優れた家来が多くおります。ある者に城南の地を守らせたところ、

南隣の楚は恐れて攻め入ろうとしません。またある者に高唐の地を守らせたところ、西隣の趙人は東境の黄河で魚を獲ることをしなくなりました。こうして優れた家来たちが自分の持ち場で一隅を照らし、国を支えてくれています。これが私の宝です』恵王はこれを聞いて大いに恥じ入ったといいます。」このことを、天台宗を開かれた伝教大師(最澄)が僧侶たちに「直径一寸もあるような珠十枚が国宝なのではなく、世の一隅に光を与え照らすものが国宝である。」と話されて今日に至っているとありました。

さて、話を戻しますが、その講演の内容は、次のようでありました。『「一隅を照らす」の一隅とは部屋の片隅ではありません。自分の今いる場所、それが一隅です。照らすということは、その場所において、自分のためばかりでなく、人のために一生懸命努力して、必要とされる人・なくてはならない人になること、これが『一隅を照らす』の意味であります。これから教職に就かれる皆さん、生徒のためにまた日本大学のために努力・精進してください。』と話されました。教師を志してはじめての研修会であり、講演をされた大学の先生の熱意に満ちた話の内容にとっても感銘を受け、40数年も前のことではありますが、いまもって記憶として残っております。そして、そのときから今日まで私は「一隅を照らす」を座右の銘としてきた次第であります。

(参考資料 月刊誌「致知」 致知出版社)





球技大会

4月21日



前日大雪、一転早春の暖かさとなった平成24年3月1日、平成23年度日本大学明誠高等学校卒業証書授与式(記念すべき節目の50期生)が挙行されました。卒業証書授与式終了後、恒例の後援会主催卒業謝恩会に臨むため、教職員、保護者はバスに分乗して会場となる京王プラザホテル八王子へ移動しました。

総勢140人余りの出席者が待ち構える中、3学年主任の坂本先生、各クラス担任が入場して卒業謝恩会がスタートしました。保護者はそれぞれの思いを抱いて先生方へ感謝の気持ちを伝えるべく、歓談いたしました。

しばらくして、会のメインイベントである3学年担当の先生方への記念品の贈呈が行われました。壇上ではお礼の言葉を添えて、先生方に記念品と花束をお渡ししました。先生方からは、思いもよらぬエピソードを交えたご挨拶をいただきて会は最高潮に盛り上がりました。卒業生保護者の感謝の気持ちを十分伝えることができた会ではなかったかと思います。

最後になりますが、会を運営するために協力して下さった後援会役員、委員、また、会員の皆様に紙面を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。





壁画



入場門



開会式



体育館ステージ



オープニングセレモニー



体育館ステージ・チア



体育部ユニフォーム展示



クラスTシャツ



屋外ステージ



日本大学学部コーナー



日本大学理工学部物理学科



模擬店

第53回 誠 祭

6月30日・7月1日



クラス展示



クラス展示



茶道部



選択美術



選択書道



軽音楽部



クラス発表



退場門



吹奏楽ミニコンサート

誠祭、バザー協力の御礼



6月30日、7月1日の誠祭での「バザー・お茶処」の開催において、後援会会員、教職員の皆様方にはバザー用品の提供及びお手伝いのご協力を賜り有難うございました。 バザー実行委員長 西村 博和

謝恩会お知らせ



毎年、卒業式終了後に後援会主催においてお世話になった先生方へ感謝の気持ちを込め、謝恩会を開催しております。本年度も例年通り行う予定ですので、3学年の保護者の皆様方のご協力、ご参加をお願い致します。

後援会 副会長 伊藤 哲也



～あ と が き～

広報誌名が変わりました

今まで学校発行の広報誌名と本誌名が似ていました。この度わかり易さを考え、本校の校章と上野原市が桜の町であることから、教職員・後援会役員で相談した結果、本誌名を「広報さくら」と変更することとなりました。

今年度も皆様に興味をもって読んでいただけるよう心掛けてまいりますので、「広報明誠」同様「広報さくら」もよろしくお願い致します。
(広報部員一同)

